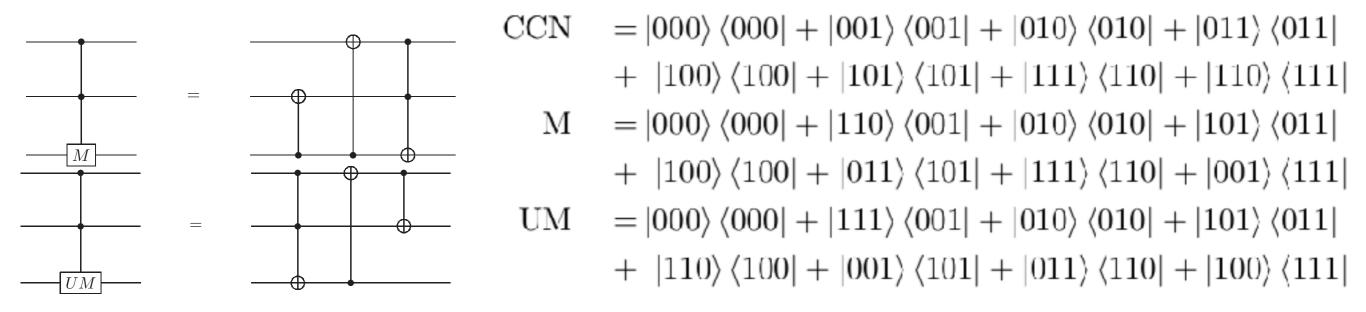
IBMQを用いた 足し算の実装

目的

- CCNOTゲートを用いてIBMQ上で加法を実装すること。
- 参考: https://github.com/QISKit/openqasm/blob/ master/examples/generic/adder.qasm

用いたゲート

- CNOT, CCNOT …… 主に他のゲートの定義に用いた。
- M,UM …… 共に3ビットに作用するゲート。CNOT, CCNOTの組み合わせで作られる。



M, UM の性質①

Mの性質:作用する2番目の量子ビットを2・3番目のビットの和の一の位に、3番目のビットを1・2・3番目のビットの和の繰り上がりの有無(有 \rightarrow 1、無 \rightarrow 0)にする。

 \rightarrow a+bを計算する際、整数iに対し次々にMをa[i-1],b[i],a[i] ([]内は桁の番号)に作用させると、bに繰り上がりを無視 した各位の和が蓄えられていき、aの最後の桁a[n]にb[n]で の繰り上がりの有無が入る

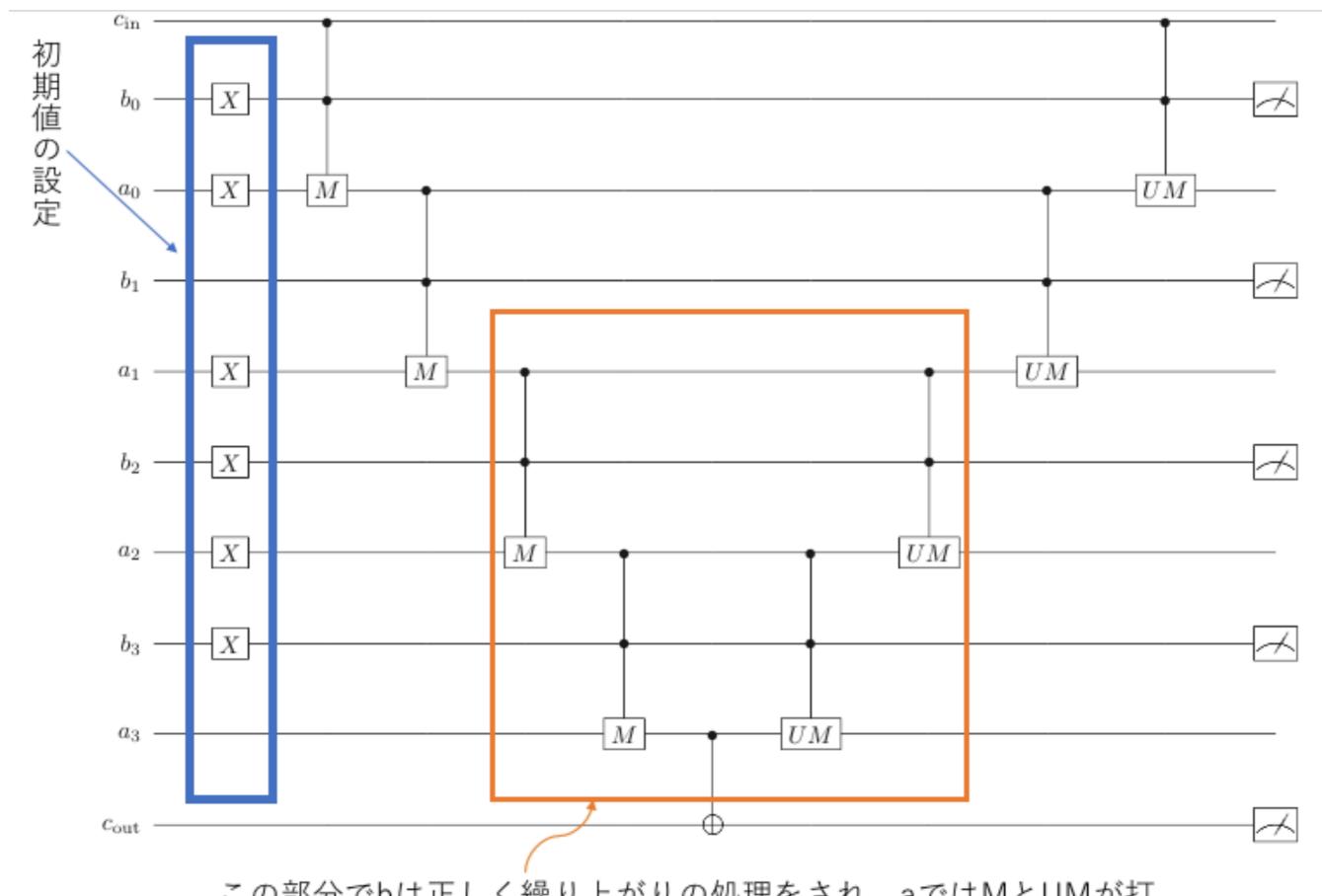
M, UMの性質②

2つのゲートの積UM・Mを作用させると、1・3番目のビットは変化しない

$$\begin{array}{ll} \mathrm{UM \cdot M} &= |000\rangle \left<000| + |011\rangle \left<001| + |010\rangle \left<010| + |001\rangle \left<011| \right. \\ &+ \left. |110\rangle \left<100| + |101\rangle \left<101| + |100\rangle \left<110| + |111\rangle \left<111| \right. \end{array} \right.$$

• UMはMのやり残した繰り上がりの処理を完遂する

→一の位から順にMを作用させていき、その後Mと同じビットに逆の順でUMを作用させて行くと、bにa+bが蓄えられる。



この部分でbは正しく繰り上がりの処理をされ、aではMとUMが打ち消しあって次のUMゲートにMで変更される前と同じ状態になる

実裝結果

- 15bit+15bitの足し算の実装に成功
- 16bit+16bitで実装したかったがIBM Q QASM Simulator のqbuitsが32のため断念
- ・形式としてはpythonファイルの引数に足し算するものを取るようにし、出力は10進法で返すようにした。
- 30000+40000は

python adder.py 30000 40000で実行され、70000と返してくれる。

問題点&今後の展望

- 実行にめちゃくちゃ時間がかかる
- ・ 30000+30000=60000の計算で441[sec]かかった
- 今回の実装方式はriiple-carry adderと呼ばれるもの(実行 時間がかかることが知られている)
- Carry-lookahead adderでの実装だとどうなる??